New York State Education Department
Office of Bilingual Education and World Languages

ニューヨーク州英語学習児童生徒
保護者用手引き

JAPANESE

保護者の方々へ

拝啓
ニューヨーク州教育省「二ヵ国語教育・世界言語」局は、英語以外の母国語を話す児童生徒が公正且つ最良の教育を受けられる様に邁進しています。英語以外の母国語でお子さんが英語を修得中か修得を始める場合、お子さんは 二ヵ国語を話すバイリンガルになります。素晴らしいことです！バイリンガルの子供は特殊な技能と強みを持つことになり、将来多くの機会に恵まれます。ニューヨーク州教育省は二ヵ国語の習熟を重要視し、お子さんの語学能力を可能な限り伸ばす様に最適な環境を作ることに努力しています。

保護者の皆様に、英語以外の母国語で英語修得の支援を必要とする児童生徒を対象とする語学課程についてお知らせしたいと思います。これらの児童生徒達は、英語学習児童生徒 (ELL) 又は多国語学習児童生徒 (MLL)と呼ばれております。これらの児童生徒は英語を修得するのみばかりではなく二ヵ国語、また時には多国語で読み書きできるようになります。

アメリカ全土では二百以上の言語が話されていますが、ニューヨーク州は文化的にも言語学的にも世界で最も多彩な地域の一つとなっています。一つ以上の言葉をこなせることは児童生徒にとって最も大切な資産となります。従って、ニューヨーク州の英語学習児童生徒(ELL)対する教育は、母国語又第一言語を資源と認め、児童生徒が学業で確実に秀でることを目標にしています。

この手引きでは、お子さんがどの様にして英語学習児童生徒(ELL)となるのか、英語学習児童生徒(ELL)が利用できる語学課程の種類、いつ英語学習児童生徒が語学課程を終了するのか、保護者はどの様にして学校から追加の資料・情報・リソースを入手できるのかなどを示しています。

保護者の皆様とご家族がお子さんの社会的・文化的及び学業での必要性を満たす為に最適な語学課程の選択に基本的役割を果たされると信じております。私達は保護者の皆様方とパートナーとなり、お子さんの語学教育の成功の為に共に努力することを望んでいます。

お子さんが豊かなで充実した学校生活をおくれますようお祈り申し上げます。

敬具

Angelica Infante-Green

Associate Commissioner of Bilingual Education and World Languages
The Office of Bilingual Education and World Languages
New York State Education Department

目次

	頁
英語学習児童生徒(ELL)に関するよくある質問	1
語学課程の焦点	2
二ヵ国語教育	
• 国語移行二ヵ国語教育課程	2
• 単方向又は双方向二ヵ国語同時学習課程	2
新言語としての英語課程	3
英語学習児童生徒と多国語学習児童生徒に関する誤解	5
知っていましたか？二ヵ国語主義と二ヵ国語教育に関する事実	7
お子さんの教育への参加	9
英語学習児童生徒の保護者向けリソース	10

英語学習児童生徒(ELL)/多国語学習児童生徒(MLL)に関するよくある質問

どの様にして子供が英語・多言語学習児童生徒(ELL/MLL)と認定されますか？

ニューヨーク州では、新入学又は再入学(２年後)する全ての児童生徒は家庭言語調査票(HLQ)を記入・提出する必要があります。家庭言語調査(HLQ)は就学時に実施されます。

この調査票と簡単な面談の結果に基づき、資格を持った教員及び専門家職員が家庭内で何語を使用しているかを調べます。この調査票と簡単な面談の結果で英語以外の言語が家庭内で使われていると判断された場合、お子さんはニューヨーク州英語学習児童生徒検定テスト(NYSITELL)を受ける必要があります。

NYSITELL テストの結果を用いて、お子さんの英語力レベル（入門、振興、上昇、拡張、統率）が判別されます。お子さんのレベルが、入門(初級)、振興(初中級)、上昇(中級)、拡張(上級)の場合お子さんは英語学習児童生徒と認められます。その場合「二ヵ国語教育」又は「新言語としての英語」課程の授業を受講できます。お子さんのレベルが統率（堪能）の場合には、お子さんは英語学習児童生徒とみなされません。

NYSITELL のテスト結果は、教員が児童生徒を教育する為に用いられます。教員はこの結果を用いて、英語の聞き取り、発話力、読解力及び作文力における児童生徒の英語力の弱点又は長所を判断します。更にこの結果は、学校が「新言語としての英語」ＥＮＬの語学授業の週当り最小時間（分）を決める為にも用いられます。

上記の判断と決定は学年度の始まる前か、就学時から１０日以内になされなければなりません。

レベル	英語能力レベルの記述
入門 (初級)	入門レベルの児童生徒は、学業における英語能力の向上の為に、学校の支援補助に大きく依存し、多岐にわたる学業面に於いて十分な英語能力を発揮する為の言語能力をまだ満たしていません。
新興 (初中級)	新興レベルの児童生徒は、学業における英語能力の向上の為に、学校の支援補助にある程度依存し、多岐にわたる学業面に於いて十分な英語能力を発揮する為の言語能力をまだ満たしていません。
上昇 (中級)	上昇レベルの児童生徒は、ある程度独自で学業における英語能力を向上できますが、多岐にわたる学業面に於いて十分な英語能力を発揮する為の言語能力をまだ満たしていません。
拡張 （上級）	拡張レベルの児童生徒は単独で、学業における英語能力を向上できることを示しており、多岐にわたる学業面に於いて十分な英語能力を発揮できる言語能力に近づいています。
統率 (堪能)	統率レベルにある児童生徒は、多岐にわたる学業面に於いて十分な英語能力を発揮する言語能力を持っています。このレベルにある児童生徒は、ELL 語学課程を受ける児童生徒とはみなされません。

焦点となっている課程

英語学習児童生徒の為の英語課程は何がありますか

現在ニューヨーク州は、州の公立学校の英語学習児童生徒を対象とした二種類の語学課程を提供しています:

1. 「二ヵ国語教育」課程
   - 「国語移行二ヵ国語教育」（TBE）課程
   - 「単方向・双方向二ヵ国語同時教育」(OWDL/TWDL)課程
2. 「新言語としての英語」（ENL）課程 かつての「第二言語としての英語」(ESL)

上記の語学課程は共通して英語学習児童生徒の学業成就を目的としていますが、母国語と英語での授業の度合いが課程によって異なります。保護者はお子さんに、「国語移行二ヵ国語教育」、「二ヵ国語同時教育」、又は「新言語としての英語」のいずれかの課程を選べます。もし現在登校している学校でこれらの語学課程が提供されてない場合、語学課程を提供している学校に転校を要請できます。「国語移行二ヵ国語教育」若しくは「二ヵ国語同時教育」の英語学習児童生徒は、ENL 児童生徒と同様の ENL 授業単位を取ることが義務付られています。最低でも英語学習児童生徒は ENL 授業の受講が義務付けられています。詳細は次を参照してください。
http://www.p12.nysed.gov/biling/docs/Nowithdrawaloptionmemo.pdf

二ヵ国語教育課程

国語移行二ヵ国語教育課程

国語移行二ヵ国語教育の語学課程では、母国語/第一言語で基礎教科の授業を受けている間、英語での会話と読み書きを学びます。英語学習児童生徒が英語を習っている間、その児童生徒の母国語/第一言語が基礎教科の授業では使用されます。この（TBE）課程の目標は、最終的に堪能レベルになった際に、児童生徒が支援無しで英語単一授業を受講できる様になる機会を与えることです。英語での学習時間が増加しても、児童生徒がバイリンガルになる機会を創る為に母国語/第一言語での授業が常に有ります。

単方向・双方向二ヶ国語同時教育課程

この課程は、英語が母国語である児童生徒と母国語でない児童生徒が二ヵ国語会話能力（二ヵ国語に堪能な会話能力）二ヵ国語読み書き能力、異文化能力、及び英語学習課程を取っていない児童生徒と同等な基礎学力と技量を修得することです。

「単方向二ヵ国語同時学習」課程は基本的に同一の母国語と文化的背景を共有する児童生徒から構成されます。教員は、英語と目標言語で授業を行ないます。

「双方向二ヵ国語同時学習」課程は、英語が母国語である児童生徒と母国語でない児童生徒を対象とします。教員は授業を英語と母国語／第一言語で行ないます。二ヵ国語同時学習課程の大部分では、半分の授業は母国語／第一言語で、残り半分は目標言語*で行われます。その割合は語学課程に依り変更します。例えば、９０％ー１０％の場合では、大部分の授業は英語以外の目標言語で行われ、５０％−５０％になるまで増やします。これらの課程の目的は児童生徒が英語と母国語/目標言語での読み書き能力と語学能力の発展です。

* 目標言語は学習中の第二言語を意味します。

もし子供が家庭で母国語をよく使っている場合でも英語を修得できますか？

よくある懸念は、二種の言語を学んでいる場合児童生徒は混乱しないかということです。過去３０年間以上の研究では、語学混乱は存在しないという結果がでています。児童生徒が自分達の母国語を用いて英語の学習をすることが有効的であるという事実があります。更に、二ヵ国語を学習している児童生徒は柔軟性のある頭脳、並びに強力な学習方法を可能にする認識力の範囲を拡大し発達させます。単方向/双方向二ヵ国語同時学習課程では、授業言語は分離されています。つまり児童生徒が所定の言語だけを使うある時間帯又は日にちを持つことを意味しています。保護者が授業を参観した時、この設定は混乱を生じさせることなく、児童生徒が二ヵ国語の使用性を発展させている状況を観察できます。二ヵ国語同時教育の児童生徒は、１０歳迄に英語のみを話す児童生徒と較べると同等かそれ以上の成績を上げているという研究結果があります。

二ヵ国語教育課程ではどんな種類の活動と授業を期待できますか？

児童生徒は一部の授業を英語で又は母国語/第一言語で行いますが、カリキュラムは二ヵ国語教育でないものと同じです。児童生徒は、数学、科学、国語（英語）、社会科を両方の言語で学習します。二ヵ国語の児童生徒は聞き取り、読み書きを英語と母国語/第一言語で可能にします。ある一つの言語での技量は第二の言語に移行します。児童生徒が母国語/第一言語で強い読み書きの能力を持っている場合、この能力は第二言語に移行します。

新言語としての英語

かつて「第二言語としての英語」（ESL）と知られていたこの課程は英語の学習を強調しています。この課程に於いて英語と一般教科は、「新言語としての英語」ENL 指導要領に基づいて英語で行われます。一般教科の授業は ENL 授業に組み込まれています。児童生徒は、理解力向上の助けとして母国語/第一言語と適切な英語学習 ELL 児童生徒指導要領を用いて基礎教科及び英語の授業を受講します。これらが組込まれた授業は ENL 教員及び教科の教員として両方で認定された教員によって行われます。若しくは ENL 教員として認定された教員と教科の教員として認定された教員が共同して授業を行ないます。ENL 課程の英語学習の授業は一般教科の学習に必要な英語力をつける為、「他言語話者への英語」（ESOL）の教員としてニューヨーク州認定の教員が行ないます。この課程では多くの異なる母国語/第一言語背景を持つ児童生徒の共通言語が英語だけなので、二ヵ国語教育課程を取れない英語学習児童生徒の為に組まれます。

これらの課程の違いは何ですか？

「二ヵ国語同時教育」課程の授業は二ヵ国語で行われ、二ヵ国語の読み書きの能力と会話能力の進展を目的としています。「国語移行二ヵ国語教育」課程の基本的な目標は、学年に応じた学力を確実につけ、母国語/第一言語で英語を修得させることです。「新言語としての英語」 課程では授業は基本的に英語で行われ、母国語/第一言語は補助的に用いられます。詳しくは次ページの表を参照してください。

	二ヶ国語同時教育
使用言語	一般的に英語 50%並びに母国語/第一言語 50%、又は母国語か目標言語 90%並びに英語 10%、50%-50%になるまで増加します。（割合は課程により変わります）
目標	英語と母国語/第一言語での読み書き能力と二ヶ国語主義

	国語移行二ヶ国語教育
使用言語	母国語/第一言語の使用は減少、英語の使用は増加
目標	英語の修得と母国語/第一言語を使用し基礎教科を継続して学習

	新言語としての英語
使用言語	主として英語　（英語学習の為母国語/第一言語で支援を提供）
目標	英語学習児童生徒の英語習熟を支援

子供の英語学習課程についてどの様に更に知ることができますか？

ニューヨーク州の公立学校は、総合学区域で利用できる色々な英語学習課程について保護者に知らせる為、新規に就学する英語学習児童生徒の家族を対象とする説明会の開催が義務付けられています。説明会で課程と規準についての資料/情報、及び英語学習課程に関して母国語/第一言語に翻訳された資料を受取ります。英語学習課程について、必要であれば通訳を通して質問もできます。説明会の最後に、お子さんの受講する授業について決める為の十分な情報の取得を確認する英語学習児童生徒の保護者チェックリストに記入します。更に、お子さんが受ける課程の最終決定をする英語学習児童生徒語学課程申し込み書を受け取ります。これらの書類は母国語/第一言語で利用できます。

いつ子供が英語学習 ELL 課程を終了できますか？

英語学習課程を終了するには四種の方法があります:

学年 K-12	NYSESLAT テストで統率/堪能レベルの得点
学年 3-8	NYSESLAT テストで拡張/上昇レベルの得点、及び同年度のニューヨーク州英語学力標準テスト(ELA)で３又はそれ以上の成績
学年 9-12	NYSESLAT テストで拡張/上昇レベルの得点、及び同年度のニューヨーク州リージェンドテストで６５点又はそれ以上の得点
英語学習障害児童生徒	語学習熟度を決める評価の代替方法が用いられます。（承認未定）

英語学習児童生徒が英語学習課程を終了した時、前英語学習児童生徒となります。前英語学習児童生は２年間、前英語学習児童生支援のサービスを受けられます。

英語学習児童生徒と多国語学習児童生徒(ELLs/MLLs)に関する誤解

誤解１：大部分の英語学習児童生徒は米国外で生まれています。

ニューヨーク州内で 5 歳から 18 歳までの間で就学中の英語学習児童生徒数は 215,000 人です。2013 年-2014 年情報集積システムに拠れば、その内 61.5%が米国生まれです。

誤解２：過去において移民は「新言語としての英語」や二ヵ国語授業無しで成功しました。

二ヵ国語に堪能であることはとても価値のあることです。雇用市場では、ますます学業成績を重要視するようになっています。ニューヨーク州が採用した英語学力標準テストでは、より高いレベルの語学力が必要です。卒業生が世界経済での競争力をつけるためです。英語学習児童生徒は母国語/第一言語で既に基礎知識を持っているため、教育者はそれを基に知識・学業を発展させ、大学進学や就職活動に向けて準備をします。

誤解３：英語学習児童生徒が日常生活の英語会話に慣れると、学業においても上手く行きます。

英語学習児童生徒は３年以内で日常生活の英会話を習得しますが、学業に十分な英語力をつけるのには７年かかります。母国語/第一言語での基礎学力と読み書きの能力の程度が英語における学業レベルの進展度に大きな影響を与えます。

誤解４：NYSITELL と NYSESLAT テストに合格することは学業的に十分な英語能力をつけたことを意味します。

上記テストに合格した児童生徒は支援や補助を、又は語学授業をまだ必要としているかもしれません。教育委員長指導要領の１５４節では、総合学区は ELL 英語学習児童生徒が語学課程を終了した後、前英語学習児童生徒として２年間の支援補助の提供を義務付けられています。前英語学習児童生徒は更に２年間継続して英語学習テストを受けられます。

誤解５：学業において成功する為、英語学習児童生徒はなるべく早く文化的に同化しなければならない。

「降参して取る」のではなく、英語学習児童生徒は新しい文化を習う間自己の独自性を保つ為に、授業活動を自分の文化的経験として捉える必要があります。教員は児童生徒の過去の知識を基礎にすることが大切です。教室での色々な文化的経験は全ての児童生徒にとって教育上の質を向上させます。

誤解６：子供が家庭で英語と母国語/第一言語にさらされることは言語障害と遅れを起こします。

言語障害や遅れは起こりません。保護者が最も堪能な言語で子供達に話すことが重要です。脳には多言語を同時に学ぶだけの容量があります。幼い時に二ヵ国語を修得すると認知能力も強化されます。この世界経済の時代には、二ヵ国語に堪能になることは学業においても経済的においても強みとなります。

英語学習児童生徒と多国語学習児童生徒(ELLs/MLLs)に関する誤解 (続く)

誤解７：児童生徒は学校で母国語/第一言語を使うのを避けるべきでです。

母国語/第一言語を使うことを奨励している学校は、児童生徒の積極的な参加の促進によって学習を支援しています。これはまた児童生徒の自信をつけさせます。

誤解８：英語漬けは英語の修得を速めます。

母国語/第一言語での授業が英語を修得させます。子供達は、英語を修得する為には強固で堪能な第一言語の基礎が必要です。二ヵ国語課程は第二言語の修得と基礎教科の学習に、又母国語/第一言語の保持に効果的な授業方法です。

誤解９：英語学習児童生徒は最初から英語で読むことを教わるべきです。

研究結果に拠れば、読解力はある言語から他の言語に移行できます。先ず母国語/第一言語で読むことを習った児童生徒は英語で読むことも修得できます。

「英語学習児童生徒への誤解を解く」２０１５年ニューヨーク州総合教員の研究と教育より

知っていましたか？
二ヵ国語主義と二ヵ国語教育に関する事実

二ヵ国語教育及び二ヵ国語併用主義における、研究結果に基づいた重要な事実を下記に記します。二ヵ国語併用主義の社会的、職業的、認知能力の点で次の利点があります:

- いくつかの研究からの事実に拠れば、二ヵ国語併用主義は計画性、問題解決性、頭脳労働の効率化などの分野で脳の機能性を高めます。
- 二ヵ国語を使用する児童生徒は、環境の観察力と集中力の維持に関してより大きい能力があります。
- 二ヵ国語教育は広範囲にわたる文化活動を考慮してあり、児童生徒間の社交性を促進させます。
- 二ヵ国語課目の児童生徒は強い自己独自性の意識を持ち、母国語に対する好感を抱いており、その文化を誇りにし表します。
- 二ヵ国語主義は職業的な資産で、世界化が進行する中、複数の言語で読み書き出来ることは大きな強みとなります。
- お子さんに母国語／第一言語で本を読み聞かせることは、学業成績を向上につながる効果的な活動です。

米国小児科医アカデミー*は最近、言語学、教育学、心理学、医学の分野に於ける証拠に基づき、社会的指針調査報告を承認しました。報告書は、多国語併用主義は育てるべき長所であり、子供の生活で避けるべき危険要素は無いと結論づけました。詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください:
http://pediatrics.aappublications.org/content/133/5/e1481.full

*２０１４年５月オンライン出版１３３巻５号「小児科」

知っていましたか？二ヵ国語主義と二ヵ国語教育に関する事実 (続く)

誤解１：子供は二種類の言語で混乱します。

- 二種類またはそれ以上の言語を同時に学習しても子供は混乱しません。両方の言語を尊重する所で育つ子供は認知力的、社会的、潜在的に経済的にも恩恵を被ります。
- 一つ以上の言語にふれた子供達は、言語、記憶、集中力に関連した脳の部分が刺激され高密度な脳組織を形成します。
- 多言語に堪能な子供達は、計画性、記憶力、新事態の対応力に優れ、誘惑に負けない自己管理能力と幼いうちから優れた読み書きの能力を持ちます。

誤解２：言葉を混ぜて使う二ヵ国語に堪能な子供達は劣った言語力を持ちます。

- 言葉を混ぜて使う子供達が劣っている訳ではなく、単に知っている言葉を全て使っているだけの事です。この言語習得は両方の言語で起きる動的な過程です。英語学習児童生徒が持つリソースは母国語/第一言語です。そして、英語を習得するにしたがって理解し使い分けするようになります。

誤解３：もし子供が英語以外の言語に常に接触している場合、英語を修得しません。

- 研究に拠れば、第二言語を学ぶ最良の方法は第一言語を使って修得することです。二ヵ国語に精通するには、二ヵ国語で先ず読めるようにし、よく訓練されている教師・教員から支援を受けることです。

誤解４：英語だけを使かわせた方が子供達の英語の上達は早くなります。

- 研究によれば、母国語／第一言語で習った方が英語を早く修得します。母国語／第一言語で習った知識は他の言語に移行できます。母国語／第一言語で読むことの学習は英語での読解力をも向上させます。（全国読解力委員会報告書：２００６年児童生徒への読解力の教育）

ニューヨークタイムズで「二ヵ国語の習熟は人を優秀にする」と新聞報道された様に、二ヵ国語主義には多くの長所が存在します。

２頁から４頁目に、ニューヨーク州の英語学習児童生徒を対象とする二ヵ国語課程について詳細に説明しています。

保護者として私達はどの様に子供を支援できますか？

- お子さんの母国語/第一言語又は英語で本を読んであげてください。研究によれば、お子さんに母国語/第一言語で本を読んであげることは英語での読解力を向上させます。
- 母国語/第一言語でお子さんに話を聞かせてください。保護者の思い出話、子供の頃の話などを話します。
- 保護者が母国語/第一言語を貴ぶことをお子さんに示します。もしお子さんが英語で答えたとしても、母国語/第一言語で話をしてください。
- お子さん用の図書館カードを取得し、図書館に行き、英語の本又は可能であれば母国語/第一言語で書かれた本を借ります。
- PTA（保護者教員）会には必ず参加してください。
- 担任の教員との個別面談を設定し、学業で良い成績を修める為お子さんに適した方法を学びます。
- お子さんが宿題をする時間を毎日とり、できれば妨げの無い静かな場所を確保して下さい。
- 家族でミュージアム（博物館・美術館・科学館）を訪れ、そこのガイドの助けをかり、お子さんと展示場を見て回りましょう。ミュージアムは放課後又は週末に低額若しくは無料のクラスを提供しています。
- 米国では、保護者は教育システムの重要な一部となっています。どの様に参加できるのか、お子さんの担任教員に訊いてください。
- 自分の権利を知りましょう。「ニューヨーク州英語学習児童生徒の保護者の権利章典」参照してください。

Colorín Colorado コロリン・コロラド
アメリカ教職組合(AFT)との共同プロジェクトである英語学習児童生徒の家庭と教育者向けバイリンガル・ウェブサイト　（英語学習児童生徒の教育に関する情報も含みます）
http://www.colorincolorado.org/

Engage NY　エンゲージ・ニューヨーク
「EngageNY.org」はニューヨーク州教育省 (NYSED)によって作られたウェブサイトで、ニューヨーク州教育評議委員会改革 政策の実施を目指しています。「EngageNY.org」はニューヨーク州内の教員に、州のビジョンによる大学/就職準備をも含めた教育ツールと教材資料を実時間で提供しています。
https://www.engageny.org/

National Clearinghouse for Bilingual Education: *If Your Child Learns in Two Languages* (booklet)
ニャ国語教育全国クリアリングハウス：「お子さんがニャ国語を学習している場合」（小冊子）
http://ncela.us/files/uploads/9/IfYourChildLearnsInTwoLangs_English.pdf

National PTA: Parents' Guide to Student Success 全国 PTA：児童生徒の成功へ保護者案内書
http://www.pta.org/parents/content.cfm?ItemNumber=2583

NYC DOE: ELL Family Resources ニューヨーク市教育局：英語学習児童生徒家庭資料
http://schools.nyc.gov/Academics/ELL/FamilyResources/Activities+For+Parents.htm
http://schools.nyc.gov/Academics/ELL/FamilyResources/default.htm

New York State Education Department Office of Bilingual Education and World Languages
ニューヨーク州教育省二ャ国語教育・世界言語局
http://www.p12.nysed.gov/biling/

New York Immigration Coalition Directory of Service Providers ニューヨーク移民連合サービス提供住所録/名簿
http://www.thenyic.org/sites/default/files/Low_Cost_Immigration_Service_Providers_Final_Draft_6.15.15_0.pdf

PBS Kids 公共放送局子供達
http://pbskids.org/

Reading Rockets: English Language Learners　読書ロケット：英語学習児童生徒
http://www.readingrockets.org/reading-topics/english-language-learners

Teachers First: Ideas and Resources for Parents of ESL/ELL Students
教員第一：ESL/ELL 児童生徒保護者向けアイデアとリソース
http://www.teachersfirst.com/par-esl.cfm

The Teaching of Language Arts to Limited English Proficient/ English Language Learners: Learning Standards for Native Language Arts
限定英語能力・英語学習児童生徒の国語教育：現住民スペイン語の学習基準
http://www.p12.nysed.gov/biling/resource/NLA.html

US Department of Education　米国教育省
http://www.ed.gov/

USDOE Federal Student Aid Portal　米国教育省連邦生徒援助ポータル
https://studentaid.ed.gov/sa/resources/parents

USDOE Helping My Child Succeed: Toolkit for Hispanic Families (English and Spanish)
米国教育省　子供が成功する為の助け：ヒスパニック系家族ツールキット（英語・スペイン語）
http://www2.ed.gov/parents/academic/involve/2006toolkit/index.html

USDOE Helping Your Child Series (English and Spanish)　米国教育省お子さん支援シリーズ（英語・スペイン語）
http://www2.ed.gov/parents/academic/help/hyc.html

情報に聡い保護者は児童生徒達の最高の擁護者

ELL 課程に関する質問・懸念がありましたら下記に連絡してください：

nysparenthotline@nyu.edu

(800) 469-8224

質問には次をご覧ください：

二ヵ国語教育・世界言語局 (OBEWL)

http://www.p12.nysed.gov/biling/

Prepared by the New York State Education Department, Office of Bilingual Education & World Languages
in collaboration with CUNY-New York State Initiative on Emergent Bilinguals (NYSIEB).
Special thanks to Dr. Carmina Makar and Dr. Dina López.